



地域医療ネットワークの会

ち☆ネット!

平成31年(2019年)3月発行
地域医療ネットワークの会
聖マリアンナ医科大学病院
メディカルサポートセンター 事務局



「顔の見える地域連携」を目指した多職種での情報交換と学びの会
それが、地域医療ネットワークの会です!

平成31年3月11日 第35回 地域医療ネットワークの会

施設における看取り

今回は、「治療や療養場所、生き(逝き)方に意思決定が求められること」等のこれまでのテーマに引き続き、自宅や医療機関以外の療養(生活)場所で最期を迎える方もいることより、「施設における看取り」をテーマに開催しました。前半は、それぞれの施設より「看取りの取り組みや事例」を紹介して頂き、後半はシンポジウム形式でディスカッションを行いました。病院や開業医、訪問看護ステーション、居宅介護支援事業所、介護保険施設、有料ホーム、教育機関等36施設、105名が参加しました。

座長 地域医療ネットワークの会世話人

二子薬局はなえケアステーション

荻原美代子

聖マリアンナ医科大学病院

丹下みづる

「特別養護老人ホームの立場から」

特別養護老人ホーム 潮見台みどりの丘

大塚美智子氏

「看護小規模多機能型施設の立場から」

ナーシングホーム岡上

林田菜緒美氏

「在宅型有料ホームの立場から」

カーサプラチナ宮前平

真壁省治氏

初めに大塚氏より「看取りの介護～かけがえのない時の流れ～」として、家族やケアスタッフへのアプローチを紹介して頂きました。特に「手紙」を通して、ご本人、ご家族、スタッフの想いを伝えることで、ご家族、スタッフのグリーフケアにつながっていることを学びました。林田氏からは、地域密着型サービスのひとつでもある「看護小規模多機能型居宅介護」では「いつもの暮らしを支えるために」自宅での生活を介護や通所等を支援しながら、必要な方には宿泊での看取りを支援する体制を紹介して頂きました。独居の方でも家族が介護をしている方でも、最期の時期に頼れる場所として活用されている実際を知ることができました。真壁氏より「在宅型有料ホーム」での



左より真壁氏、林田氏、大塚氏

看取りについて、ご本人、ご家族の意向を基にスタッフや施設の看護師、訪問診療医等の多職種が、状況に合わせて連携を行いながら支援されている実際を紹介して頂きました。前半の発表では、それぞれの施設の特徴や取り組み等について、新たな知識を得られたり、深めることができました。

シンポジウムでは、「病状や今後の見通し等、どのタイミングでご本人、ご家族へ説明をすることが良いのか」、「施設でのエンゼルケアを知りたい」、「病棟で看取りを迎える際に病院でできることはどんなことがあるか」等、多くの質問があり、様々な情報提供やディカッションが行われました。

